

Data Pump インポート

ヘルプの表示

expdp help = y

impdp help = y

1. Data Pump によるインポートの実施方法 (P.437)

[データ移動] タブ → 行データの移動・セクションの「エクスポート・ファイルからのインポート」

「インポート：ファイル」画面

入力するインポートのファイルについて、入力元のディレクトリ・オブジェクトとファイル名を指定します

インポート・タイプ (インポートの対象範囲) を選択する (データベース or スキーマ or 表 or 表領域)

ホスト資格証明欄に、OS 側のユーザー名とパスワードを入力する

をクリック

「処理中」画面が表示されます

ステップ 1/5 「インポート：指定したインポートタイプ」画面

インポート**読取り**に成功した旨のメッセージが表示されます

ファイルがインポートに使用できると認証されただけ

(仮読取りによる中身のオブジェクト索引の作成)

ボタンをクリックして、インポートするオブジェクトを指定します

すべてのオブジェクトの指定が出来たら、 ボタンをクリックします

※ この画面で、 ボタンをクリックすることにより、必要な空き領域の容量が見積もれます

ステップ 2/5 「インポート：再マッピング」画面

ここでは、エクスポートした時のスキーマや表領域とは異なるオブジェクト先 (スキーマや表領域) へのインポート・マッピングの指定が出来ます

ステップ 3/5 「インポート：オプション」画面

ログファイルについて、生成の選択 () をチェックします

ログファイルについての出力先のディレクトリ・オブジェクトとファイル名を指定します

をクリック

ステップ 4/5 「インポート：スケジュール」画面
このジョブをスケジュールするために、ジョブ名と開始日時を入力します
 をクリック

ステップ 5/5 「インポート：確認」画面
インポートで設定を行った内容が表示されます
 をクリック

「ジョブの名前」をクリックするとジョブが開いて、インポートについての結果
内容が表示できます

Data Pump インポートによる表作成のみ もしくは、レコードのみの操作

操作方法

ステップ 3/5 「インポート：オプション」画面

ここで、「拡張オプションの表示」という文字をクリックします。
以下の表示がされ、対象を選択することが出来ます

—— コンテンツ ——

ソース・データベースからのインポート対象

- すべて
- データのみ
- メタデータのみ (オブジェクト定義のみをインポート)